

Title	幼若期ハムスター精巢の5 β -及び5 α -reductaseの局在について
Author(s)	古林, 芳範
Citation	
Issue Date	
Text Version	none
URL	http://hdl.handle.net/11094/33295
DOI	
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

氏名・(本籍)	ふる 古	ばし 林	よし 芳	のり 範
学位の種類	医	学	博	士
学位記番号	第	6004	号	
学位授与の日付	昭和58年3月25日			
学位授与の要件	医学研究科 病理系専攻 学位規則第5条第1項該当			
学位論文題目	幼若期ハムスター精巢の5 β -及び5 α -reductaseの局在について			
論文審査委員	(主査) 教授 松本 圭史 (副査) 教授 垂井清一郎 教授 北村 幸彦			

論 文 内 容 の 要 旨

〔目 的〕

ゲッ歯類の精巢では、幼若期に特異的に、testosteroneに代って、5 α -androgensが生合成されることを我々は報告してきた。乳児期・成熟期ハムスター精巢でも、progesteroneからtestosteroneが生成されるが、幼若期では5 α -androgensが多量に生成されることがわかった。このage-dependent patternは、すでに報告されているラット、マウスなどとよく似ている。我々はさらに、幼若期ハムスターの精巢では、5 β -C₁₉-steroids (etiocolanalone, 5 β -androstane-3 α , 17 β -diol)も、progesteroneからmajor C₁₉-steroidsとして生成されることを見い出してすでに報告した。今回は、この幼若期ハムスター精巢に特異的に存在する5 β -及び5 α -reductaseの局在を検討した。

〔方 法〕

- 1) 精巢成分の分離：4, 10週令のハムスター精巢を、拡大鏡下に用手的に間質と精細管に分け、一部は組織標本作製に供した。
- 2) Subcellular fractionation：精巢のhomogenateを超遠沈法で、核・ミトコンドリア・マイクロゾーム・サイトゾールの各分画に分離し、一部をMarker Enzyme測定に用いた。
- 3) 5 α -及び5 β -reductase, 17 β -ol-dehydrogenase 活性の測定：各組織のhomogenateと、homogenateから得たsubcellular fractionに、¹⁴C-androstenedione (3.5n mol/ 0.2 μ Ci/0.4 ml) とNADPHを加えて、34℃で15, 30分間 incubateした。反応生成物を抽出し、Colum- 及びPapar-chromatographyにて各生成物を分離し、再結晶法にて同定した。各酵素活性は、生成された5 α -及び5 β -steroids, 17 β -OH-steroidsの総和 (n mol/100mg protein/hour) で示した。

4) 3β -ol-dehydrogenase活性の測定：homogenateに、 ^{14}C -pregnenoloneとNADを加えincubateし、生成されたprogesteroneを測定した。この酵素は主に間質細胞に存在することがわかっているので、精細管への間質細胞の混入の程度を知るために測定した。

〔結 果〕

精細管と間質の分離一分離組織を顕微鏡で見ると、精細管への間質の混入はほとんどなく、 3β -ol-dehydrogenase活性をみても、幼若期、成熟期とも精細管の活性は、間質の約1/100で間質細胞の混入のほとんどないことを示していた。

5β -及び 5α -reductase、 17β -ol-dehydrogenaseの活性—幼若期精巣では 5β -reductaseは精細管に、 5α -reductaseは間質細胞に、 17β -ol-dehydrogenaseは両者に存在することが判明した。一方、成熟期精巣では、 5β -及び 5α -reductase活性は、約1/10に低下したが 17β -ol-dehydrogenase活性は、約10倍と著明に上昇した。 5α -reductaseは間質細胞に、 17β -ol-dehydrogenaseの両者に存在した。

5β -及び 5α -reductase、 17β -ol-dehydrogenaseの細胞内局在—幼若期精巣のsubcellular fractionにおける各酵素活性をみると、 5β -reductaseはcytosol分画に、 5α -reductase、 17β -ol-dehydrogenaseはmicrosome分画に存在していた。

〔要 約〕

幼若ハムスター精巣の間質細胞では、microsome分画に局在する 5α -reductaseにより、cholesterolから 5α - C_{21} -steroids、androstenedione、testosteroneを経て、 5α - C_{19} -steroidsが生成される。間質細胞から、 5α - C_{19} -steroidsとともに分泌されるtestosterone、androstenedioneは精細管のcytosol分画に局在する 5β -reductaseにより、 5β - C_{19} -steroidsに代謝される。 17β -ol-dehydrogenaseは、間質のみならず精細管にも強い活性が存在することが明らかとなった。間細胞で生成されるandrostenedioneは、精細管内でtestosteroneに転換されると考えられる。

論 文 の 審 査 結 果 の 要 旨

げっ歯類の精巣には、幼若期に特異的にTestosteroneに代って、Progesteroneから 5α -androgenが生合成されるが、幼若期ハムスター精巣では 5α -androgenのみならず 5β -androgenも多量に作られることがわかり、我々はこの幼若期ハムスター精巣に特異的に存在する 5β -及び 5α -reductaseの局在を検討した。その結果、 5α -reductaseは間質細胞のmicrosome分画に、 5β -reductaseは精細管のCytosol分画に、 17β -ol-dehydrogenaseは、両者のmicrosome分画に局在することを明らかにした。